

教育研究科 M2

3人の先生方の各々異なる専門領域に係るお話を伺い、研究のアプローチの手法等興味深く学ぶことができました。

とりわけ、ジェンダーの視点から社会生活上のみならず研究者として女性がどのような「困難」を抱えているかという点について、理屈としてではなく実際を通して男性も理解しておくべきと考え受講させて戴きましたが、先生方が研究領域に関しいきいきとお話をされている様子を拝見し、自分も研究に対して真摯に取り組まなければならないとあらためて意を強く致しました。

有光先生のお話は、子育てと研究活動を両立させてきたエピソードがたいへん印象に残りました。金井先生のお話は、以前「差異と共生」の中でも伺っておりましたが、国や経済界が女性研究者要請に重点を置き始めた社会的背景としていわゆる「新日本型経営システム」等が関与しているというご指摘等、ジェンダー問題について多くの示唆を受けました。藤原先生からは、研究者になられた経緯や一期一会の出会いの大切さ等についてのお話が印象深く、自然環境保全に対する思いが伝わってきました。

有難うございました。

工学府 M1

物理情報工学専攻 電気電子ネットワークコース 陳 賢珠 (ジン ヒョンジュ)

今までの私はいつも後ろにいる人だったと思います。しかし、今日の先生方たちの話を聞いてすごく反省しました。

実は昨日までずっと自分の将来について悩みましたが、今日授業をうけてからやっと決めました。これからは女性だからやめようの態度じゃなくて、女性でもうまくいけるの態度で生きて行きたいと思います。

今日の授業は私にとって本当に良かったと思います。勇気を出せるようにしてくださって先生方に本当にありがとう

ございます。

最初は土曜日に授業があつて苦しかったですが、これからは楽しめると思います。

環境リスクマネジメント専攻 D1年

本日は貴重なお話をありがとうございました。考えさせられることが多く、私自身人生とは何か。キャリアとは何か。非常に今見つめなおしたいと改めて感じました。

有光先生のお話では、周りがどんなに批判をしてもあきらめず自分の専門分野を続け、どんな時でも仕事を辞めなかったことはとても心強かったです。誰しも経験する壁をどのように乗り越えなければならないか、両立の難しさなどマイナスに考えずプラスに考えていく大切さを学びました。

金井先生のお話では、女性のキャリアについて、そしてジェンダーについてとても関心あるテーマでとても参考になりました。日経の取材で金井先生がお話されてことは、まさに女性にとっての負の部分であり、女性がキャリアを積むことで影響されていく様々な洗礼をどのようにして向き合わなければならないか、とても考えさせられました。これからキャリアパスについて授業を通して考えていきたいと思います。

最後に藤原先生のお話では出会いの大切さ、感動する大切さを学ばせて頂きました。多くの方々との出会いが人生を支えていく。それは女性にとっても重要であり、人間関係の素晴らしさといえます。女性だから人間関係につまずくことも、生きづらさを感じ、不安を感じています。そうしたことも考えていく必要がありますし、その中で明るい未来に生きていくにはどうしたらよいか向き合う時期が大学生、大学院生だと思います。今だからこそ、向き合うチャンスですし、キャリアパスを考えていく姿勢をこの授業を通して学びたいと思います。

工学府（専門：物理）M1

有光先生

「仕事を辞めることは考えられなかった」という言葉が印象に残りました。自分が何をやりたいのかを決めるには、自分の内なる声に耳を傾けなくてはいけないと思いました。先生と同じ物理が専門なので親しみをもってお話を伺いました。

金井先生

最近女性研究者支援がトレンドであるが、それが本当に私達にとって追い風になっているかどうか疑問に思っていたところだったので、専門家の立場からのお話を伺うことができ良かったです。現代は女性の生き方の選択の幅が広がって、色々なことを期待されて大変だから、自分の母親のように専業主婦が一番幸せなのかな…とってしまう自分もいますが、それは今の研究生生活からの逃避願望のあらわれなのかも知れません。有光先生のメッセージともからみますが、それこそ自分自身ともっと向き合わないと出て来ない答えだと感じました。

藤原先生

研究の楽しさが伝わってきました。自分が心から楽しいと思えること、ワクワクすること（感動すること）を求めていきたいと思いました。

色々な場でサポートし合える仲間達をみつきたいです。

環境情報学府藤原研究室

「女性のキャリアパス」という講義を履修登録をして良かったなと思っています。金井淑子先生のお話も藤原一繪先生のお話もとても面白くて、自分をもっと頑張っていかなければならないと思うようになりました。女性というものはそんなに強く生きることができるのかといつも疑問していましたが、先生たちの経験を聞き、感動する以上、これから自分も研究にライフワークとして一生頑張っていきたいです。

女性はどのような生き方を期待されているのか、女性も男性と同じように自分の生き方があり、自分の目標に向かって頑張れば、いつか良い結果が得られると強く信じるようになりました。

講義一とても意味深い講義だと思います。女性にとって、研究動力が与える講義だと思います。今のところ中国では、就職するとき、女性の就職率がとても少なく、女性たちはいくら才能があっても重視されることができないのです。「女性のキャリアパス」という講義が中国の中にも広がってほしいです。

① 有光先生

貴重なお話ありがとうございます。話があちらこちらへと広がってとても楽しく聞かせていただきました。

乱流計算の話は、実験値と理論カーブが非常によく合っていることが素晴らしいと思いました。あの式は、お一人で作られたのでしょうか。それとも、チームでの作業なののでしょうか。私の研究もあのくらいピシッと合ってくるとよいのですが…。

プライベートなお話が聴けたのがとてもためになりました。研究のお話は授業や論文でふれることができますが、なかなか、女性研究者の「私」の部分の話は聞く機会がありません。他の先生についても、さしさわりのない範囲でよいので、苦労話などを教えていただけたらと思います。

② 金井先生

私は理系に入って長いので、文系的な講義はとても久しぶりでした。集中していたのに、眠くなってしまいました…。男女雇用均等法が制定されて男女は平等になったように思いましたが、理系の職場ではまだまだ男性優位です（私は社会人ドクターです）。男性はどうやら女性に仕事を奪われることが嫌で意地悪をしているのではないのでしょうか。器が小さいな…。男性は悪いことをしないとというだけで普通に評価してもらえるのに、女性はめざましい働きをしないと評価してもらえないのが困りものです。

「女性だから、政治的な意味合いで（女性を対等に扱っているという対外的なアピール）、上に取り立ててもらえたんだよ…」なんて言う陰口を聞くとがっかりします。

③ 藤原先生

私の仕事（社会人ドクターです）に一番近いお話でした。とは言っても専門が触媒化学なので、研究内容には接点がありません。先生はフィールドワークとおっしゃっていましたが、私は仕事で野外実験をしています。作業服を着て、作業靴をはいて、ヘルメットをかぶって、ケーブル巻をかついだり、スコップで穴を掘ったり、尾根に登ったりします。就職活動で面接を受けた時、「女性だけれど、汚い服装とか夜中までの作業もしてくれますか？」と聞かれたのが印象的でした。普通の女性はやはり嫌がるものなののでしょうか。女性は体力的には男性に劣ってしまう場合が多いとは思いますが、それ以外では、負けていないとおもいませんか？

「女性キャリアパス」感想、意見

- ・ 色々な視点のお話を伺えて良かった。理系研究者の先生のお話に加えて、金井先生のジェンダー論のお話は意義深かったと思った。
- ・ 受講者が少なかった
 - 良かった点：毎回全員の感想を聞いた。
 - 悪かった点：受講者同士の交流が行いづらかった
- ・ 1回の時間が長かった
 - 良かった点：社会人ドクター等、忙しい学生が受講しやすい。
1人の先生につき90分も、人生について伺える機会はなかなかないので、濃く、貴重な時間だった。
 - 悪かった点：せっかく良い授業だったのに友人を誘いづらかった。2、3コマくらいであれば気軽に誘えたかも
- ・ 講義名に「女性」とついていた
 - 良かった点：女性の働き方・生き方のお話を伺えるという授業の意図が伝わりやすい
普段男性に囲まれているので、女性が集まって本音で話せる場が楽しかった
 - 悪かった点：男性にも聞いてほしいが、この名前では受講は躊躇してしまうのでは（唯一の男性受講者の教育研究科の社会人マスターの方がとても立派だと思いました）